

【目次】

- 夏休み中の教育相談
- 夏休み中の災害や事故から児童生徒が自ら身を守るためのポイント

---

□夏休み中の教育相談

---

●保護者との連携が欠かせません！

夏休みを迎えます。児童生徒の生活の中心が学校から家庭や地域に移り、教職員からは、彼らの表情や言動の変化が見えにくくなるため、保護者との連携が不可欠です。待ちの姿勢では情報共有は難しいものです。電話連絡や必要に応じて家庭訪問を行うなど、長期休業期間にこそ保護者が相談しやすいと感じる関係づくりに努めたいものです。

●夏休み中も組織的な見守りを

学期中から組織的な見守りを続けてきた児童生徒に対しても夏休み中にケース会議を開き、担任だけに負担をかけない体制にすることが大切です。情報を共有し、必要があればSCやSSW等を含めたチームで保護者との面談や家庭訪問を行うなど、積極的な支援を行うことで、2学期の指導につながる土台をつくりましょう。

<チーム学校を支える心強い仲間 その2>

先月号に引き続き、チーム学校を支える専門家のみなさんをご紹介します。

●スクールロイヤー

大分県弁護士会の協力のもと、法律の専門家(弁護士)が「法的側面からのいじめ予防授業・講演及び教職員研修」「学校からの法的相談への対応」「児童生徒・保護者を対象とした電話相談会」などを行います。

●スクールサポーター

警察と学校の橋渡し役を務める警察官OBが県内8カ所の警察署に配置され、小・中・高校等を訪問しています。非行防止や犯罪被害防止の授業等の支援、声かけや不審者侵入等の被害防止対策、校内暴力等の非行問題への指導・助言などの活動を行っています。

---

□夏休み中の災害や事故から児童生徒が自ら身を守るためのポイント

---

落雷や遊泳中の事故など、夏休み中に発生する可能性がある災害・事故に対して自ら身を守ることができるよう児童生徒に対して指導をお願いします。

●落雷への対応

急に空が暗くなる。冷たい風が吹く。遠くで雷鳴が聞こえる。・・・これらは、発達した積乱雲による現象であり、落雷の前兆です。屋外での活動は危険です。雷が発生したら建物の中に避難して雷が止むのを待ちましょう。立木の下や金属製フェンスの近くは避けてください。最新の落雷状況は気象庁の「雷ナウキャスト」も活用してください。

●アツという間に流される離岸流に要注意

溺れる事故の5～7割は、岸から沖に向かう強い流れ「離岸流」に巻き込まれて発生しています。海で泳ぐときには、遊泳禁止区域では泳がない。波が高いときには海に近づかない。突堤や構造物の近くでは泳がない。もし離岸流に巻き込まれたら慌てずに岸と平行に泳いで離岸流から脱出し、その後岸に向かって泳ぎましょう。

---

※過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

→ <http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課

URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>